

--- 早期発見・早期治療のため、大切な命を守るために『がん検診』を受ける ---

町で実施している『がん検診（胃・肺・大腸・乳・子宮）』は、国の指針に基づき実施しています。各種がん検診を受診される前にご一読いただき、ご理解いただいてから受診をお願いいたします。

ご不明な点等ございましたら、市川三郷町役場いきいき健康課 健康増進係までご連絡ください。

（問い合わせ先）TEL：055-224-9010 F A X：055-272-1198

胃がん検診

▶バリウム検査：40 歳以上で年 1 回

▶胃内視鏡検査：50 歳以上で 2 年に 1 回(集団健診では、胃内視鏡検査は実施しておりません)
わが国では、50 歳代以降に胃がんにかかる人が多く、**胃がんは死亡原因の 3 番目**です。(※1)

胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえる等の症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関へ受診をしてください。

精密検査は、「バリウム検査の場合→胃内視鏡検査、胃内視鏡検査の場合→生検（組織の一部を採取して調べる）または、胃内視鏡検査の再検査」となります。

【以下に該当する方は、検診当日の問診で、ご遠慮いただく場合があります】

- ・骨粗しょう症により治療中や骨折の危険性がある方
- ・消化器系の病気で治療中の方
- ・筋力低下等により、歩行がスムーズにできない方 等

肺がん検診

▶40 歳以上で年 1 回

わが国では、**肺がんは死亡原因の 1 番目**です。(※1)

血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れ等の症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関へ受診をしてください。

精密検査は、**C T 検査**や**気管支鏡検査**です。

大腸がん検診

▶40 歳以上で年 1 回

わが国では、大腸がんにかかる人が増加しており、**大腸がんは死亡原因の 2 番目**です。(※1)

血便、腹痛、便の性状や回数に変化や症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関へ受診をしてください。(早期には自覚症状がないため、“異常を感じたら”では、治療が困難になる場合があります。)

精密検査は、**全大腸内視鏡検査**が第一選択となります。

裏面もご覧ください →

乳がん検診

▶マンモグラフィ検査は40歳以上で2年に1回

※30歳から超音波（エコー）検査が受けられます。

（乳腺の状態によっては、マンモグラフィ検査では判定が難しいことがあるため、町では1年おきに超音波（エコー）検査ができるようになっていきます。）

日本人女性の9人に1人がかかると言われており、40～60歳代女性では、がん死亡原因の1番目です。（※1）

しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれ等の症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関へ受診をしてください。

精密検査は、マンモグラフィの追加撮影・超音波（エコー）検査・細胞診・組織診などを組み合わせて行います。

【以下に該当する方は、検診当日の間診で、ご遠慮いただく場合があります】

- ・妊娠中の方
- ・授乳中の方（乳腺の発達により、正確な検査ができない可能性があるため）等

【自身で気づくためのポイント】

- ① 日ごろから乳房を見て・触って、乳房の状態を知る
- ② 乳房の変化に気を付ける（しこりや血性の液は注意）
- ③ 変化に気づいた場合、医師へ相談する

子宮がん検診

▶令和8年度末年齢21歳以上の女性で2年に1回

子宮頸がんは、20代後半以降から増え、特に30～40歳代の女性で増加傾向です。

（※1）

閉経後や生理以外の出血、生理が不規則等の症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関へ受診をしてください。

精密検査は、コルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査を組み合わせて行います。

※1) 2022年 国立がん研究センターがん情報サービス「最新がん統計」より

●がん検診を受診していただくにあたり

- ・検診による早期発見でがんによる死亡リスクを減少させることができますので、検診を定期的に受診することをお勧めします。
- ・検診で『要精密検査』となった場合は、必ず精密検査を受けてください。
（検診では、がんではないのに『要精密検査』と判断される場合や、がんがあるのに見つけられない場合もあります。）
- ・検診は町と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。（精密検査結果は町へ報告されます。）